

と祈るのみである。

特別攻撃隊 第一特別振武隊々員

斎藤 信雄 (大正十四年九月三十日生)

赤井字鷲塚五三番地

沖繩戦の特別攻撃隊、第一特別振武隊々員として昭和二十年四月十二日、アメリカ機動部隊に休当たりを敢行して散華した斎藤信雄は大正十四年九月三十日、赤井字鷲塚五三番地に斎藤新平の次男として生まれた。赤井尋常小学校を経て同高等科を卒業、東京陸軍航空学校、熊谷陸軍飛行学校等を卒業した。少年飛行兵第十三期であった。

昭和十九年台湾第三六部隊に配属となり、加古川中部第一〇四部隊、第一八四三一部隊等に転属となり、比島に派遣された。その後内地に転勤となり昭和二十年四月十二日、九州都城の飛行場から沖繩本島沖に集結するアメリカ空母群を求めて出撃、体当たりを敢行して散華した。

左記は遺筆三通のうち一部である。

謹啓 其の後御家庭内皆様には御変りありませんか

降って小生御蔭様にて相変らず元氣にて軍務に精勵致して居ります故他事ながら御安心下さい

御両親様 喜んで下さい 小生の宿望の出陣が間近になり此の上は一日も早く出陣致し 叔父兄上の仇をうつべく大いに張切つて居ります

先般小生兄死亡の際痛省致しましたので何一つとして心残りの事はありませんが、唯一つ小生今迄二十有年となるも御先祖並に御両親様に対して何一つとして尽すこと出来ず実に申訳ありません 何卒御許して下さい 出陣致したからには小生十二分に覚悟を致して居ります故、其の分は何卒御心配御無用です此の便りも最後の便となるかも知れず万一を考慮致して爪、毛髪若干かたみと

して御送り致します

一度征途に越くやもとより生還を期せず空染む屍となり真に我々日本軍人の本分を全ふ致す覚悟であります 此の時には大いに喜んで下さい 出陣は今月中にて何時行くか不明、又此の便りとどく頃は出陣の后と思ひます 出陣が一日も早からん事を祈つて居ります 大阪市南区千日前竹林寺向浪花軒写真真館にて写真をとりましたので此れは今月六日に仕上げ 宅迄送る様に有ります故、受け取って下さい 若し送らざる時は右記の住所にせいきゅうして下さい 先は此れ迄 最後に御両親様の御健康と御幸福を御祈り致します

御両親様

出陣前 信雄より

弟妹に告ぐ

今後共兄弟仲よく相助け合ひ御両親様に安心させよ

御前達は何一つとして兄として尽すこと出来ず実に申訳なし 頼りがひのない兄と思ふな、俺は今から最新鋭戦闘機(決戦機)に乗り南海の第一線に行きあのにくい米英を打滅し今は亡き長兄並に学叔父の仇をうつから楽しみに待つて居れ

② 叔父学、昭和十七年十二月二十八日、ガタルカナル島で戦死。

兄輝男、昭和十九年八月五日、横須賀海軍航空廠において事故のため死亡。

小生此の度第一特別攻撃隊振武隊の一員として行く事になりました

此れ小生最初より望むところでありませす 比島に於いても一度特攻の命を受けましたが、残念な事に飛ぶ機なき故、中止となり実に残念でした。 一度比島にて死んだものとして此の度行きます 小生には何一つ心残りの事はありません故、何卒御安心下さい 今時の桜の花の如くぱっと咲いてぱっと散るどりせ一度は死ぬものです故、小生は花々しく散って行きます 出発する迄は后十数時間しかありません 必ずや大型艦船を轟沈させます かくて比島での戦友隊

斎藤伍長ら第一特別振武隊は昭和二十年四月六日と十二日沖繩本島周
辺に集結しているアメリカ機動艦隊に体当たりを敢行、連合艦隊司令長



第一特別振武隊として出撃の伊藤少尉(左)・斎藤伍長(右) (特攻機は陸軍の戦闘機「疾風」)
斎藤ついで氏提供



斎藤信雄伍長
斎藤ついで氏提供

長の仇、兄様の仇を打ちます
かくて兄様と共に草葉の蔭にて
皆様の御健康と御幸福を御祈り
致します 敵米英の撃滅の神機
まさに到来す 我れ喜びて死に
つく
先は御無沙汰御詫言々御知らせ
迄 最後に皆様の御奮闘を御祈
り致します
特攻の信雄より
永久にさようなら

御両親様

宮崎県都市牟田町

宮九町 都内

斎藤信雄

官豊田副武大将より感状を受けた。
写真は昭和二十年四月十二日、第一特別振武隊として出撃する斎藤伍
長

機密聯合艦隊告示(布)第一五八号

軍極秘 布告

第一特別振武隊
飛行第百二戦隊附 陸軍少尉 林 中二也
飛行第百一戦隊附 同 田 枝 幹太郎
同 同 友 枝 幹太郎
飛行第百二戦隊附 同 林 玄 一郎
同 同 浜 谷 理 一
飛行第百一戦隊附 同 伊 藤 二 郎
飛行第百一戦隊附 同 石 賀 兵 一
飛行第百二戦隊附 陸軍軍曹 斎 藤 信 雄
飛行第百一戦隊附 同 斎 藤 信 雄
同 同 上 津 一 記

第一特別振武隊員トシテ昭和二十年四月六日及十二日、勇躍出撃
跳梁スル敵戦艦機並熾烈ナル防禦砲火ヲ冒シテ沖繩本島周辺ニ蟻
廻セル敵艦船群ニ対シ必死必中ノ体当リ攻撃ヲ決行シ克ク其ノ精
華ヲ殆擧シテ悠久ノ大義ニ殉ス忠烈万世ニ燦タリ
仍テ茲ニ其ノ殊勲ヲ認メ全軍ニ布告ス
昭和二十年五月二十七日
聯合艦隊司令長官 豊 田 副 武

特別攻撃隊 義烈空挺隊員

木村 正 雄 (大正十一年九月二十九日生)
大曲字堺堀一七九ノ一

本町大曲簡場出身の木村正雄曹長(故木村弥一氏三男)は、昭和十三

